

平成 30年 07月 09日

国土交通大臣 殿

地域型住宅グリーン化事業 適用申請書

【平成30年度】

本申請書の内容により、地域型住宅グリーン化事業の適用を申請します。
この申請書及び添付資料に記載の事項は、事実と相違ありません。

地域型住宅の名称

北国の快適で健康に住める住宅

グループの名称

北国の快適で健康に住める住宅を推進する会

直近採択グループ番号

06-0778-0030

(グループ代表者)

代表者名

頭久保 幸宣

代表者印

代表者所属先

株式会社頭久保

代表者所在地

青森県三戸郡五戸町油出19-2

代表者電話番号

0178-62-2151

(グループ事務局)

事務局事業者名

株式会社頭久保 十和田店

事務局担当者名

赤坂 浩徳

印

事務局郵便番号

034-0037

事務局所在地

青森県十和田市穂並町10-37

事務局電話番号

0176-23-4158

事務局FAX

0176-23-4187

事務局担当者E-mail

kasirakb@oregano.ocn.ne.jp

| | | | | | | | | | |
|---|---|-------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------|---|---|
| B. 平成30年度における補助対象の木造住宅 の申請要望戸数、地域材加算要望戸数、 三世代同居対応加算要望戸数(必須) | 長寿命型 | 長期優良住宅 | 経験工務店(4戸(8戸)以上)の申請戸数 | 今年度要望する戸数(上限100万円) | | 2 | 戸 | | |
| | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算を要望(上限20万円) | 2 | 戸 | | |
| | | | | | 上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円) | 0 | 戸 | | |
| | | | | その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限100万円) | | 0 | 戸 | | |
| | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | 0 | 戸 | | |
| | | | | | 上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円) | 0 | 戸 | | |
| | 長寿命型 | 長期優良住宅 | 未経験工務店(3戸(7戸)以下)の申請戸数 | 今年度要望する戸数(上限110万円) | | 10 | 戸 | | |
| | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算を要望(上限20万円) | 8 | 戸 | | |
| | | | | | 上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円) | 1 | 戸 | | |
| | | | | その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限110万円) | | 0 | 戸 | | |
| | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | 0 | 戸 | | |
| | | | | | 上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円) | 0 | 戸 | | |
| | C. 平成30年度当初予算における補助対象の優良建築物の申請要望棟数及び床面積 | 高度省エネ型 | 認定低炭素住宅 | 経験工務店(4戸(8戸)以上)の申請戸数 | 今年度要望する戸数(上限100万円) | | 0 | 戸 | |
| | | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算を要望(上限20万円) | 0 | 戸 | |
| | | | | | | 上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円) | 0 | 戸 | |
| | | | | | その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限100万円) | | 0 | 戸 | |
| | | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | 0 | 戸 | |
| | | | | | | 上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円) | 0 | 戸 | |
| | | | 高度省エネ型 | 認定低炭素住宅 | 未経験工務店(3戸(7戸)以下)の申請戸数 | 今年度要望する戸数(上限110万円) | | 3 | 戸 |
| | | | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算を要望(上限20万円) | 2 | 戸 |
| | | | | | | | 上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円) | 0 | 戸 |
| | | | | | | その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限110万円) | | 0 | 戸 |
| | | | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | 0 | 戸 |
| | | | | | | | 上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円) | 0 | 戸 |
| 高度省エネ型 | | 性能向上計画認定住宅 | 経験工務店(4戸(8戸)以上)の申請戸数 | 今年度要望する戸数(上限100万円) | | 0 | 戸 | | |
| | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算を要望(上限20万円) | 0 | 戸 | | |
| | | | | | 上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円) | 0 | 戸 | | |
| | | | | その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限100万円) | | 0 | 戸 | | |
| | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | 0 | 戸 | | |
| | | | | | 上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円) | 0 | 戸 | | |
| 高度省エネ型 | | 性能向上計画認定住宅 | 未経験工務店(3戸(7戸)以下)の申請戸数 | 今年度要望する戸数(上限110万円) | | 0 | 戸 | | |
| | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算を要望(上限20万円) | 0 | 戸 | | |
| | | | | | 上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円) | 0 | 戸 | | |
| | | | | その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限110万円) | | 0 | 戸 | | |
| | | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | 0 | 戸 | | |
| | | | | | 上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円) | 0 | 戸 | | |
| 高度省エネ型 | ゼロ・エネルギー住宅 | 経験工務店(4戸(8戸)以上)による申請戸数 | 今年度要望する戸数(上限125万円) | | 0 | 戸 | | | |
| | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算を要望(上限20万円) | 0 | 戸 | | | |
| | | | | 上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円) | 0 | 戸 | | | |
| | | | その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限125万円) | | 0 | 戸 | | | |
| | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | 0 | 戸 | | | |
| | | | | 上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円) | 0 | 戸 | | | |
| 高度省エネ型 | ゼロ・エネルギー住宅 | 未経験工務店(3戸(7戸)以下)による申請戸数 | 今年度要望する戸数(上限140万円) | | 0 | 戸 | | | |
| | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算を要望(上限20万円) | 0 | 戸 | | | |
| | | | | 上記の内、三世代同居加算を要望(上限30万円) | 0 | 戸 | | | |
| | | | その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限140万円) | | 0 | 戸 | | | |
| | | | 加算申請 | 上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円) | 0 | 戸 | | | |
| | | | | 上記の内、三世代同居加算の申請が確実(上限30万円) | 0 | 戸 | | | |
| D. 当提案が採択された場合の各住宅事業者における補助対象戸数の配分ルール(必須) | 優良建築物の申請棟数 | | 今年度要望する棟数及び面積 | 0棟 | / | | | | |
| | | | | 0㎡ | | | | | |
| | | | その内9月までに交付申請が確実にできる棟数及び面積 | 0棟 | | 0㎡ | | | |
| E. 平成29年度の執行状況(必須) | 申請が確実な住宅を優先し、それ以外は基本的に先着順とする。 | | | | | | | | |
| | 長寿命型(長期優良住宅) | | | | | | | | |
| | 採択戸数 | 2 | 戸 | 交付申請戸数 | 1 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 1 | 戸 |
| | 高度省エネ型(認定低炭素住宅) | | | | | | | | |
| | 採択戸数 | 0 | 戸 | 交付申請戸数 | 0 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 0 | 戸 |
| | 高度省エネ型(性能向上計画認定住宅) | | | | | | | | |
| | 採択戸数 | 0 | 戸 | 交付申請戸数 | 0 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 0 | 戸 |
| | 高度省エネ型(ゼロ・エネルギー住宅) | | | | | | | | |
| | 採択戸数 | 0 | 戸 | 交付申請戸数 | 0 | 戸 | 完了実績(竣工予定含む)戸数 | 0 | 戸 |
| | 優良建築物型 | | | | | | | | |
| 採択棟数 | 0 | 棟 | 交付申請戸数 | 0 | 棟 | 完了実績(竣工予定含む)棟数 | 0 | 戸 | |
| 採択床面積 | 0 | ㎡ | 交付申請床面積 | 0 | ㎡ | 完了実績(竣工予定含む)床面積 | 0 | ㎡ | |

| | | |
|--|---|--------------------------|
| 1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須) | (地域型住宅の名称) 北国の快適で健康に住める住宅 | (地域型住宅供給対象地域) 青森県、岩手県 |
| 2. グループの名称・結成年(必須) | (グループの名称) 北国の快適で健康に住める住宅を推進する会 | (結成年) 2016年 |
| 3. 過去のグリーン化事業採択グループ番号(必須) | 06-0778-0030 | |
| 4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。 ※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取組に違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。 | | |
| ア. 特徴ある地域型住宅の目標設定 | | |
| 【平成30年度対応方針】 | | ◎、○ 記入欄 |
| ①地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の重視する性能 | 青森県、とりわけ当会が住宅供給エリアとする太平洋側の県南・南部地域は、夏は比較的涼しいが冬は積雪は比較的少ないものの冷え込みの非常に厳しい風土である。寒冷地が多く発生する家の中での急激な温度差による心筋梗塞や脳梗塞は、住宅の断熱性能を高めることで抑制効果が期待できる。また、断熱性能を高めることで同時に四季を通じて住宅の快適性と満足度が向上できるため、平成28年省エネ基準への適合を最低限順守する。夏場は機械冷房に頼らず積極的な外気の取り入れにより住環境の快適化を図る。 | ◎ |
| ②地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の建て方や様式 | 地域材(合法木材を含む)や自然エネルギーを活用した断熱性、耐震性、恒久性の高い木造住宅とする。住宅の長寿命化への傾向や初期投資への負担を考慮し、後から太陽光発電設備が採用しやすいような屋根形状や構造体の検討に努める。また、高齢者の割合が高くなっていく当地域においては、将来における車椅子の利用に配慮した間取りの検討や浴槽の計画あるいは廊下、トイレ等に手すりを配置できるような構造体を検討しておく。またプレカットや金物工法をできるだけ採用することで、精度を高めると同時に省施工を図る。 | ◎ |
| ③地域の気候・風土等に根差した地域型住宅のデザインルール | 四季を通じ、快適かつ創エネルギーに配慮した住宅デザインとする。青森県内においては冬場は津軽地方と比べ冬の降雪量が少ない代わりに冷え込みの厳しい風土であるため、南面の開口部を広く取り、日射を積極的に取り入れられるように配慮する。一方で夏場は季節風やませの影響で涼しい気温になりがちでもあり、機械的な冷房に頼らず、自然通風を積極的に取り入れたパッシブデザインに配慮する。採用する開口部の設計デザイン、種類はグループ内で協議・検討していく。 | ◎ |
| ④①～③の背景 | 北東北、特に青森県は全国でも平均寿命が短く青森県としても短命県返上キャンペーンを官民一体となって実施している。短命の一因である心疾患は住宅内の温度差によるヒートショックがトリガーとなる。当地域より更に冬の冷え込みが厳しいが断熱環境において先進的な北海道においては心疾患の発生が特筆するほどではないことから、断熱性能の差が違いとなって現れていると考えられる。特に温度差の激しい浴室、脱衣室、トイレの断熱性能の改善は必須である。特定の部屋を温めるのではなく、家の中の温度の平準化を目指し住宅の断熱性能を高めることでヒートショックを防止するとともに、快適で光熱費を抑えた健康的な住まいを普及していきたい。 | ◎ |
| ⑤その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。 | 平成28年度省エネ基準の断熱性能を必須とする。UA値0.50W/m ² K、C値2.0cm ² /m ² に加え、高効率な設備を採用することで一次エネルギー削減率10%の木造住宅の標準化を図り、将来的にはZEHの普及を目指す。少子高齢化に加え若者の流出と地域住民の高齢化という現実に対し、今後はさらに高齢者の自宅での自活が課題となる。将来の住環境に対処するべく、フレキシブルなリフォームや改修を可能にするための間取りや構造体の工夫をグループ内で検討・共有することで、この地域への普及・波及に繋がるように努力していく。 | ◎ |
| イ. 効率的で適切な就業環境が確保された住宅生産体制の整備 | | |
| 【平成30年度対応方針】 | | ◎、○ 記入欄 |
| a | | |
| ①-1 用材の寸法規格化 | <input type="checkbox"/> 行っていない ■ 行っている → 内容: 胴差を150mm以上とする | ○ |
| ①-2 使用建材の統一 | <input type="checkbox"/> 行っていない ■ 行っている → 内容: 耐力壁部分は構造用合板か構造用パネルあるいは個別認定品とする。 | ○ |
| ①-3 標準仕様の設定 | <input type="checkbox"/> 行っていない ■ 行っている → 内容: 根太を使用せず24mm以上の床合板を標準とする(床剛性が高まり施工が効率的になる) | ○ |
| ②-1 建材・資材調達の見直し | <input type="checkbox"/> 行っていない ■ 行っている → 内容: 建材、資材を構成員と事務局の協議の上一括購入先を設定しコストダウンを図る | ○ |
| ②-2 調達事務の合理化 | <input type="checkbox"/> 行っていない ■ 行っている → 内容: 定例会で進捗物件の情報を共有し、資材調達の事務的効率を上げる | ○ |
| ③ 生産の合理化等に向けた検討委員会等の設置 | <input type="checkbox"/> 行っていない ■ 行っている → 内容: 事務局内に合理化検討委員会を設置し問題点、改善点を協議し品質向上を図る | ◎ |
| ④ 生産の合理化等に向けて事務局が果たす役割 | <input type="checkbox"/> ない ■ ある → 内容: 当事業の書類作成、申請のサポート。住宅関連の情報発信による周知活動。 | ◎ |
| b | | |
| ① グループの信頼性向上に向けた施工基準 | <input type="checkbox"/> ない ■ ある → 内容: 雨水侵入にかかる建材の標準施工を徹底する | ○ |
| ② グループの信頼性向上に向けた検査ルール | <input type="checkbox"/> ない ■ ある → 内容: 下屋あるいはバルコニー施工前にマニュアル通りの施工かチェックする | ○ |
| ③ グループの信頼性向上に向けた見積・積算のルール | <input type="checkbox"/> ない ■ ある → 内容: 見積・積算を製品代・工事代と分けて実施する | ○ |
| ④ グループの信頼性向上に向けたその他の具体的取組 | <input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容: | |
| c | | |
| ① 週休2日制の導入の取組 | <input type="checkbox"/> ない ■ ある → 内容: 働き方改革として個々の生産性の向上を図り、若い職人の採用のため労働環境の改善に努める | ○ |
| ② 技能や経験にふさわしい処遇の実現に向けた取組 | <input type="checkbox"/> ない ■ ある → 内容: 安定的な職人の確保のためベテラン若手問わずモチベーションを向上させる待遇に向け工夫する | ○ |
| ③ 社会保険への加入 | <input type="checkbox"/> ない ■ ある → 内容: 建設業の活性化のためにも全員が加入していくように努力する | ○ |
| ④ 安全及び健康の確保のための取組 | <input type="checkbox"/> ない ■ ある → 内容: 建設業において必要と思われる情報を随時事務局より発信、共有する | ○ |
| その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。 | 123 | |

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

| | | | |
|--|-----------------------------------|---|---|
| 1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須) | (地域型住宅の名称) 北国の快適で健康に住める住宅 | (地域型住宅供給対象地域) 青森県、岩手県 | |
| 2. グループの名称・結成年月(必須) | (グループの名称) 北国の快適で健康に住める住宅を推進する会 | (結成年) 2016 年 | |
| 3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須) | 06-0778-0030 | | |
| 4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み | | | |
| ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。 ※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取組に違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。 | | | |
| ウ. 長期にわたる住宅メンテナンス体制の整備 | | | |
| 【平成30年度対応方針】 | | | |
| a | ◎、○ 記入欄 | | |
| ① 住宅蓄積情報のメンテナンステキ | ①-1 内容・蓄積の共通ルール | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 施工構成員が住宅履歴の内容と蓄積を実施する、又は専門の住宅履歴サービス会社に委託する | ○ |
| | ①-2 情報サービス機関の活用 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 住宅履歴サービス会社に委託する場合は情報サービス機関を活用する | ○ |
| | ①-3 履歴情報蓄積の確認手法 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 施工構成員又は情報サービス機関を活用する | ○ |
| | ② メンテナンス基準 | ②-1 点検の共通ルール | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 1年点検、3年点検、10年点検を実施する |
| | | ②-2 補修の共通ルール | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 補修のガイドラインを作成し、実施する |
| | | ②-3 点検補修実施の確認手法 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 補修前、補修後の画像履歴と実施内容を保存し蓄積する |
| | ③ 住まいの管理 | ③-1 住まい管理勉強会の実施 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 事務局が毎年実施する住まいの総合展で施主向けのセミナーを実施する |
| | | ③-2 DIY体験会等の実施 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 事務局が毎年実施する住まいの総合展で施主向けのセミナーや体験会を実施する |
| | | ③-3 その他の相談会等の実施 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 事務局が毎年実施する住まいの総合展で施主からの相談を受け付ける |
| | ④ 維持管理委員会等の設置 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 事務局に維持管理委員会を設置する(1年3年10年の点検案内) | ◎ |
| | ⑤ その他の維持管理の手法 | <input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容: | |
| b | | ① グループ構成員の倒産廃業時のバックアップルール | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 倒産、廃業の際は事務局が中心となり、協議の上で施工業者へ引き継ぐものとする |
| | | ② 過去の瑕疵内容等に学ぶ勉強会の実施 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 事務局が開催する建材説明会にて過去の瑕疵に対する対応を周知している |
| その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。 | | | |
| エ. グループの技術力の向上 | | | |
| 【平成30年度対応方針】 | | | ◎、○ 記入欄 |
| a | | ① 未経験工務店等への施工技術研修会等の開催 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 定例会において施工の講習会を実施する |
| | | ②-1 品質管理のための共通ルール | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 検査会社からの内容報告を事務局にも報告し、周知することで全体のレベルアップを図る |
| | | ②-2 上記共通ルールが守られていることの確認手法 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 検査会社からの控えを事務局に提出し事務局でも管理する |
| | | ③-1 需給計画の策定 | <input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容: |
| | | ③-2 技術力向上のための中長期的な計画 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 認定低炭素住宅から、ゼロ・エネルギー住宅、ゆくゆくはLCCMIに取り組んでいく |
| | | ④ ③に基づく業種ごとの合理化の取組 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 上記省エネ住宅関連商品の情報をとりまとめ、施工構成員に効率よく発信していく |
| b | | ①-1 省エネ技術講習会への施工事業者社員の参加人数 | 昨年度までの終了者数 41 今年度の参加目標人数 9 |
| | | ①-2 省エネ技術講習会への請負技能者等の参加人数 | 昨年度までの終了者数 今年度の参加目標人数 |
| | | ② 省エネ技術講習会への参加促進のための取組 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 事務局で開催時期を把握し、施工構成員に効率よく周知する |
| c | | ① 新たな技術等の導入 | <input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 蓄電池の普及に努める |
| | | ② 新たな技術等の開発 | <input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容: |
| その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。 | | | |

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

| | | |
|---------------------------|-----------------------------------|--------------------------|
| 1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須) | (地域型住宅の名称) 北国の快適で健康に住める住宅 | (地域型住宅供給対象地域) 青森県、岩手県 |
| 2. グループの名称・結成年月(必須) | (グループの名称) 北国の快適で健康に住める住宅を推進する会 | (結成年) 2016年 |
| 3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須) | 06-0778-0030 | |

4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み

キ. グループが取組む木造住宅・建築物の特徴

※この項目は、高度省エネ型、優良建築物型を申請するグループのみ記入してください。

※申請に係る認定低炭素住宅、性能向上計画認定住宅、ゼロ・エネルギー住宅、優良建築物の性能や特徴等について記入してください。

高度省エネ型住宅を広く普及させるために、各地域工務店の特色を活かせる様、断熱材や開口部の部材を自由に選択できるよう配慮する。住宅の基本性能である断熱性能の強化を徹底することで屋内でのヒートショックを予防し高齢者にも快適で健康的な住宅の提供を目指す。一次エネルギー消費量削減のため、エネルギー効率の高いヒートポンプ式給湯器や冷暖房設備に加え、太陽光発電や蓄電システムに関する最新情報をグループ内で共有し、可能な範囲で広く採用していくことで快適さと低炭素化の両立を進めて行く。住宅の省エネルギー性能を担保するものとして、建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)の活用を推進する。また、金利上昇を見据えフラット35Sを活用することでコスト増による負担軽減が図れるよう努める。定期的に勉強会を開催するなどしてグループ内の周知活動を行う。



節水機器



パッシブな遮熱や換気経路の計画による快適性の向上



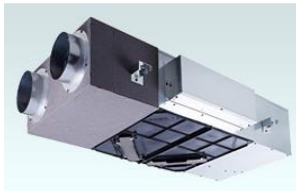
高性能断熱サッシ



高効率ヒートポンプ給湯器



高効率エアコン



熱交換式換気システム



太陽光発電、蓄電、HEMS



※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。